

松山市議会 副議長選挙に係る所信表明会会議録

[開催日時]

令和5年6月29日（木曜日）午後3時3分開会
午後3時13分開会

[開催場所]

議 場

[所信表明者]

1. 吉 富 健 一 議員（公明党議員団）

— 午後3時3分開会 —

○黒川泰雅事務局長 ただいまから副議長選挙に係る所信表明会を開催いたします。

失礼して着座にて進行いたします。

お手元配付の所信の概要のとおり、吉富議員から所信表明の申出がありました。

この際、申し上げます。

申合せにより、所信表明に対しては、何人も拍手、その他の方法により賛意を表し、またはやじ、その他の方法により反意を表してはならないこととなっておりますので、御注意を願います。

それでは、吉富議員、所信表明をお願いいたします。

〔吉富健一議員登壇〕

○吉富健一議員 公明党議員団の吉富健一です。

皆様の貴重な時間を頂戴いたしまして、これより副議長選挙の実施に先立ちましての所信を述べさせていただきます。

新型コロナウイルスの感染拡大から3年半がたとうとしています。御案内のとおり、5月の連休明けに、新型コロナウイルスの感染症法上の位置づけが5類に移行となり、感染症対策は、大きな転換点を迎えることになりました。重症化リスクの高い方々への配慮やウイルスの変異の可能性、第9波のおそれなど、いまだ手放しで喜べる状況ではありませんが、徐々に社会経済活動が再開し、コロナ前の日常を取り戻しつつあることを実感いたします。この間、執行機関においては、保健所をはじめ、各部局で未曾有の災難への対応に御尽力されるとともに、議会におきましては、新型コロナウイルス感染症対策連絡協議会を設置し、執行機関及び議員間の相互の意思疎通を図り、人と人が相対すること自体が困難な状況にあつて、議会のチェック機能を維持してまいりました。コロナ禍で学んだ一つが、人と人が直接会って対話することの価値・重要性でありました。手洗い、マスクの着用、3密回避といった新しい生活様式が浸透し、オンラインでの会話やミーティングが普及し、コロナ前には、なかなか普及しなかった在宅や遠隔での就業が加速する機会にもなりましたが、相づちのタイムラグや8割方しか伝わっていない感覚に、もどかしい思いをした方も多と思います。

私自身は、議員活動の要として、市民相談に力を入れておりますが、コロナ前には、気づきもしなかった対面で対話すること自体の意義を再認識しています。市民の声を代弁するに当たっても、また議会の合意を形成するに当たっても、対面で対話することの重要性は同じだと思います。

一方、3年半に及ぶコロナ禍で、情報通信技術の活用により、オンラインでのやり取りやデジタル化も大きく進展し、もはや後戻りはできない様相です。経済活動では、ネット通販やキャッシュレスによる決済が広く普及し、行政においても、「行かない市役所、書かない窓口」の整備が進みました。市役所においても、1か所に集い、対面で行うのが難しいのであればと、オンラインでの議会報告会を開催し、市民参画の窓口を確保してまいりました。こうしたコロナ禍において期せず実現した行政や議会のデジタル化というプラスの遺産は、今後ますます生かしていかなければならないと考えています。言うまでもなく議会の権能は、最少費用で最大効果を発揮できるよう、行政をコントロールすることであり、また真に市民の幸福に役立つ政策を立案することにほかなりません。これからウイズコロナ・アフターコロナに向かって行政の監督機能と政策立案力を発揮するために取り組むべき課題は少なくないと思います。

そこで私は、一つには、対話の重要性を再認識し、市民の皆様の声に耳を傾け続けるとともに、多様な民意を踏まえた議会の合意形成に努めていきたいと考えています。

また、市民参画の在り方についても再検討するのを感じています。特に議会報告会については、市民が参加をして、楽しくてためになるものになればと思っています。

そして、議会のデジタル化については、現在、特別委員会において御検討いただいているタブレット端末の導入や情報通信機器の活用に関する規定について、また分かりやすいプレゼン型議会質問への環境整備についても検討を進める必要があると考えています。

結びになりますが、私は、議員の皆さんの御指導をいただきながら、お知恵とお力をいただきながら、市

政の向上のために、そして市民生活の安寧のために精いっぱい尽力をしていきたいと決意をしております。
皆様の御賛意を賜りますようどうぞよろしくお願いを申し上げます。

○黒川泰雅事務局長 以上で、吉富議員の所信表明は終わりました。

以上で、副議長選挙に係る所信表明会を終了いたします。

— 午後 3 時 13 分閉会 —